

授業科目名	理学療法評価学総論	授業形態	講義	配当学期	1年（前期）
担当教員名	沖田 任弘、水谷 貴佐、井東 優貴	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	〔授業概要〕 「理学療法は評価に始まり評価に終わる」ともいわれる。適切な評価を正確に行い対象者の失った機能と残存機能を把握し、現在の問題点と将来起こりうる問題点を把握することは理学療法の基本となる。また対象者の社会的環境や個人的環境などを考慮しその障害像を総合的に判断することは重要となる。 〔学習目標〕 1. 理学療法評価の意味と目的を理解する。 2. 理学療法評価項目を学び、基礎的知識との関連性を学ぶ。 3. 理学療法を実施するための評価の流れを理解する。 4. 評価への基本姿勢を学ぶ。 5. 評価結果を記録する方法を学ぶ。				
授業回数	授業内容				
第 1 回	理学療法評価とは				〔沖田〕
第 2 回	評価の進め方				〔沖田〕
第 3 回	医療面接（観察・情報収集など）				〔沖田〕
第 4 回	医療面接の実際				〔沖田〕
第 5 回	感覚検査				〔沖田〕
第 6 回	反射・筋トーンス検査				〔沖田〕
第 7 回	協調性検査				〔沖田〕
第 8 回	脳神経検査、痛みの検査				〔沖田〕
第 9 回	画像の診方				〔沖田〕
第 10 回	バイタルチェック				〔井東〕
第 11 回	筋力検査				〔井東〕
第 12 回	徒手筋力検査				〔井東〕
第 13 回	形態測定				〔水谷〕
第 14 回	関節可動域測定				〔水谷〕
第 15 回	高次脳機能障害				〔水谷〕
評価方法	課題レポート（20%：井東）、筆記試験（80%：沖田、水谷）にて評価する。				
教科書 参考図書	〔教科書〕 リハビリテーション基礎評価学 （羊土社）				
	〔参考図書〕 理学療法評価学 第3版 （神陵文庫）				
履修上の 留意点	運動学、解剖学、生理学などの基礎的な知識と関連付ける復習をする。 指定された疾患について予備知識を持つようにする。 前向きな姿勢で疑問を持ちながら学ぶ。				
メッセージ	質問はいつでもお受けします。				